

【山都町】 校務DX計画

1. 現状と課題

①現状

デジタル化や電子データの活用等で校務を効率化することにより教員の業務負担軽減を図り、児童生徒を触れ合う時間確保に努めている。働き方改革を進めるうえで欠かせないものとして、サービス管理をはじめ、校務全般を網羅する校務支援システムを令和6年10月より導入・運用した。

また、教員1人1台の校務用PC、セキュリティソフト、校務用ネットワーク、安全性が確保されたサーバー型の統合型校務支援システムが整備され、効果的に運用されている。校務用PCにおいては、毎年度30台ずつ入れ替えをしている。

学校ウェブサイトで日常活動の様子や学校評価等を情報公開しており、電子メールや保護者連絡アプリ等により保護者とのコミュニケーションを図っている。

②課題

町内学校全体や各校独自の取り組みを進める中で、FAXの利用や押印の見直しなど、デジタル化や手入力作業を一掃することで校務の効率化やペーパーレス化を検討する必要がある作業等がある。

また、保護者とのコミュニケーションツールでもある電子メールの利活用、ICTスキル、校務の効率化について学校間・職員間で差異がある。

2. 校務DXに向けた取り組み

上述1-②の課題を踏まえ、校務DXに向けた取り組みを以下のとおり進める。

タイムカード（出退勤管理機能）やメッセージ機能、アンケート機能等がある学校用グループウェアを導入（令和7年1月から利用開始）。

校務DX化を推進するために、導入した校務支援システム、学校用グループウェア、保護者連絡アプリを最大限に活用できるよう、学校間・教員間の格差解消を進める必要がある。そのためにも、ICT支援員や導入業者を活用した職員研修を継続的に取り組む必要がある。

（1）業務を支援するツールを活用した効率化の推進

教職員の業務負担を早急に軽減するため、まずは既存の校務支援システム等の活用方法を研究・実践する。また、オンライン会議のツールを活用し、児童生徒と

のリアルタイムでの連絡や学習状況の把握・評価の充実を図るとともに、教職員間の情報共有を促進し、校務の効率化をさらに推進する。

(2) 次世代型校務支援システムの導入

次世代型校務支援システムの導入を令和8年度中に検討し、校務系・学習系ネットワークの統合を目指す。

(3) FAXの利用・押印の見直し

FAXのやり取りや押印作業の見直しを行い、ペーパーレス化を行う。

(4) 不必要な手入力作業の一掃

町教委からの各学校へデータで名簿情報を提供することにより、校務支援システムの名簿情報の不必要な手入力作業の一掃を目指す。